

# 保護者との協働による魅力ある学校図書館整備への取り組み

前フランクフルト日本人国際学校 校長

岩手県遠野市立上郷小学校 校長 坂 下 明 洋

キーワード：在外教育施設、学校図書館、保護者

## 1 はじめに

海外に設置されている全日制の日本人学校の1つであるフランクフルト日本人国際学校に3年間派遣される機会を得た。在籍している児童生徒は一定期間の生活を経て帰国し、日本の学校で学習を続ける割合が90%以上になる。このことから、よりよく生きる基盤となる「価値・教養・感性」を涵養すると共にこれからの変化の激しい社会の中、自らの責任で判断する情報の収集を取捨選択できる能力等を身につけるうえで、日本語の読書教育や学校図書館の担う役割は大きい。

フランクフルト日本人国際学校の30周年を迎えた2014年、その記念事業の1つとして保護者の多大な理解と協力を得て学校図書館の充実を進めることとなった。

## 2 学校図書館の環境整備

### (1) アセスメント

フランクフルト日本人国際学校は年間を通して転出入が70名前後と大きく入れ替わるが、小学部と中学部を合わせると平均約270名の規模で推移している全日制日本人学校である。この学校図書館を利用するのは、同校の児童生徒と父母の会、更に同じ校舎を土曜日に利用する約280名の補習授業校の児童生徒とその保護者となっておりその対象は広い。

学校図書館について、学校懇談会でも環境整備の充実を求める声は上がるものの、派遣教員の任期が短いため図書館担当者が毎年入れ替わること、全日制の児童生徒と保護者に加え補習授業校など複数の団体がそれぞれのルールで管理しているため、ニーズに応えるための統一した対策を取ることができにくい状況にあった。

この活動の記録は2014年5月の図書館環境整備の組織発足から翌年の2月までの約10ヶ月にわたるフランクフルト日本人国際学校における保護者ボランティアの活動の記録である。

上記の状況について、2013年度の父母の会の会長を始めとする4役が中心となり図書館環境整備のボランティアを募集したところ、予想を大きく上回る20名の協力が得られることとなった。

早速、活動を開始し、第1回目の集会で組織を「図書館応援団」と命名し、貸し出しや配架状況などのアセスメントを実施して次のような課題が浮かび上がった。

#### ■「図書館応援団」がとらえた当初の状況■

①配架されている図書が収容量を超えている②読まれていない図書が数多く見受けられる③出版社が異なるが同じテーマの図書が散見される④表紙が破れ落丁の図書が目立つ⑤低学年の図書が上段に配置されているなどの配慮が必要⑥誰もが理解できる図書収納の一貫性やルールが必要⑦図書の魅せ方についての配慮が必要

### (2) 改善方針

#### ①本棚の配置換え

現状の本棚の配置を見直し、本を探すのが楽しくなるよう創意工夫を集める。

#### ②図書館の本棚の8割～9割の収納

本棚に図書の量が多すぎると、子ども達の読みたい本に出会いにくくなる。

読まれた形跡のないものや同種類の本を廃棄する。

### ③新しい視点での図書分類の導入

現在の蔵書を全て把握したうえで、現状に最も適した分類を工夫する。

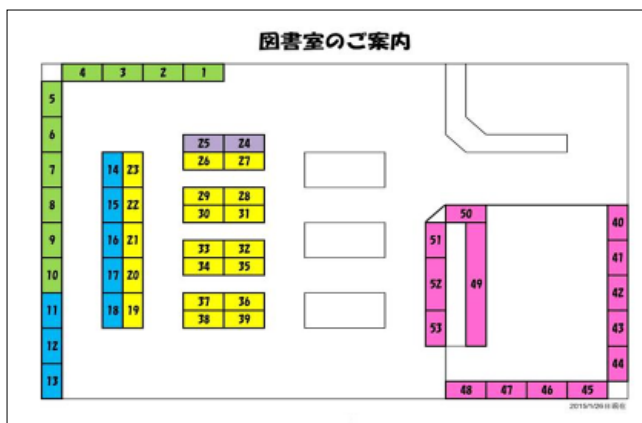
上記のアセスメントを踏まえ、図書館を管理している複数の団体の代表を集め、今後、「図書館応援団」の計画のもと他団体が購入した図書の廃棄も含め、環境整備を進めることのできることを得た。

Fig.1(本棚配置換え)

### (3) 活動内容

#### ①本棚の配置換え【Fig.1】

従来通りの方法での図書分類法で図書の整理を始めたところ、小学生向けと中学生向けの本が混在し、読みたい本が見つげにくいという声が会員から上がってきた。更に省スペースを有効活用するため、背の高い棚が多くあるために小学生の低学年向けの図書が棚の上段に配架されている場所もあったため、図書館全体を包括的に見直す必要があるのではないかという意見が出された。



そこで、日本の書店の配架を参考にし、会員の意見も参考にしながら、既成概念にとらわれない子どもの目線を優先した配置換えを進めた。

Fig.2(図書分類)

#### ②図書分類【Fig.2】

かつて、自動車メーカーで車内デザインを担当していた保護者の経験を生かしながら、子どもが本を見つけやすくなるような分類という視点を大切に分類のあり方についての協議に多くの時間を費やした。その結果、図書分類法による配架を改め次の5分類による配架を考案した。

- 学習関連図書（緑色）
- 中学生・大人向け図書（青色）
- 高学年・低学年向け図書（黄色）
- えほん（桃色）
- 谷文庫（紫色）

#### ③図書館の断捨離【Fig.3 配架】

図書の貸し出しを通常通り行うことを最優先しながら全ての蔵書の把握。そして、新刊図書の受付と平行して新たな分類による図書移動と廃棄作業は7月から11月までの約5ヶ月の時間をかけることになり予想以上の労力と時間を必要とした。

また、魅力ある図書館にしたいという会員個々のアイデアとセンスが図書館内の装飾や掲示に次々と生かされていった。

列	内容	冊数	備考
1	児童など	5	
2	図鑑、理科の読み物、児童、フェアリー・見聞記、シートン動物記など	6	
3	天体、星図、天気、環境、科学など	6	
4	美術・図工・趣味・教養、その他	6	
5	国語、音楽、体育、算数・数学、雑学など	6	
6	歴史	6	
7	日本の歴史	6	
8	世界の歴史	6	
9	地理	7	
10	社会	7	
11	中学生・大人向けの文学	4	
12	中学生・大人向けの外国文学	4	
13	中学生・大人向けのドイツ文学	4	
14	古典文学	6	
15	児童文学	6	
16	児童	6	
17	中学生・大人向け文庫	6	
18	社会	7	
19	高学年以上向け外国文学	6	
20	児童	6	
21	高学年向け文庫	6	
22	児童	6	
23	児童	6	
24	<谷文庫>30周年記念行事共催として父母の会より寄付された資金で購入した本と谷さんを通じて寄贈された本合わせて500冊	4	
25	児童	4	
26	児童	4	
27	上段:高学年向け「文学」	4	
28	下段:低学年向け「文学」	2	
29	のシリーズ作品	4	
30	児童	4	
31	児童	4	
32	児童	4	
33	児童	4	
34	児童	4	
35	上段:高学年向け「文学」	4	
36	下段:低学年向け「文学」	4	
37	を作者名で、か、さ、た、な……別二分類	4	
38	児童	4	
39	児童	4	
40	児童	3	
41	児童	3	
42	絵本の日本の作品を作者名で、か、さ、た、な……別二分類	3	
43	児童	3	
44	児童	3	
45	日本の絵本、外国の絵本	3	
46	外国の絵本	3	
47	外国の絵本	3	
48	外国の絵本でシリーズもの	3	
49	絵本シリーズもの	1	
50	幼児向けの図鑑	1	
51	人気の挿絵アニメ絵本	1	
52	児童	1	
53	世界の名作絵本	1	



Fig.3 (配架状況)



Fig.4 (貸し出しルール)



④試行期間【Fig.4 貸し出しルール】

作業を始めてから6ヶ月が過ぎた12月。整備のめどが付き、図書の貸し出しの試行を行った。貸し出すシステム等に問題はなかったため、微調整を行った後に、図書貸し出しを2週間停止し全ての図書に収納ラベル貼り作業を集中的に行った。

(4) 活動の記録

月	活動日	活動内容
5月	30日	20名の会員と学校関係者による発足集会で「図書館応援団」誕生
6月	12日 26日	図書館の実態を把握するため、現状のやり方で本を整理してみることで問題を把握
7月	3日 4日 10日	図書館整備について方針決定 方針に沿って整理作業を開始①
8月	20日	整理作業②
9月	8日 11日 18日 23日	整理作業③④⑤ 図書の表紙に貼るビニールコーティング講習会
10月	2日	図書室飾り付け
11月	6日 20日 21日、22日	新着図書登録作業（谷文庫500冊） 創立30周年記念事業「音楽と語りのコンサート」実施。著名な朗読家谷京子氏らによる朗読会を実施
12月	4日 5日	整理作業⑥⑦ 新しい方法での図書貸し出し試行期間を実施
1月	8日 12日 15日 19日 26日 29日	図書貸し出しを2週間停止して全ての図書に新収納ラベルを貼る作業を実施 図書室倉庫の整理①
2月	12日	図書室作業整理②

## (5) 「図書館応援団」からの提言

### 図書館のスペースは限られています（提言）

「図書館応援団」は2014年度、これまでの30年の間に増えすぎてしまった図書約1,000冊を処分し、子ども達にとって快適な図書館作りを行ってきました。その結果、図書館全体の蔵書量の9割になりました。この適切な蔵書量を今後も維持していくことが何より大切です。

これからも快適な図書館を維持していくために次の3点について留意のうえ、図書館運営を進めていただくことを提言いたします。

#### その1

新刊図書を購入するときは蔵書リストを確認のうえ購入することはもちろんのこと、子ども達のニーズや教科書で扱う教材にも配慮して購入することに努めてください。

#### その2

現在の蔵書量の9割を維持するようにお願いします。そして、それを維持するために購入した分だけの図書の廃棄を行うように努めてください。

#### その3

当校の図書館は省スペースなため、多くの図書を配架させるために本棚が高くなっています。このため図書分類法で整理すると、低学年の本が棚の上になることもあるため、低学年と高学年に分類し、低学年の本は棚の下部に配架し、漢字にルビをふってあります。それ以外は高学年向けになるようにしていますのでご留意ください。

2015年3月  
フランクフルト日本人国際学校  
「図書館応援団」一同

## 3 活動を振り返って

約10ヶ月にも及ぶ活動期間を経て学校図書館が生まれ変わった。予想を大きく上回る活動時間を費やし、少しでも海外で暮らす子ども達により良い環境で日本語と関わって欲しいという願いが、しっかりとした形となって開館した。

図書館の重要性は理解しつつも、補習校、父母会、当校と複数の組織がそれぞれで管理しているため、改善計画が立てられないままの時間が過ぎていた。この度の大幅な改善が予想を上回る形で整備された要因は、「図書館応援団」20名の熱意と行動力、そして複数の団体への窓口となった当時の教頭先生のコーディネート力によるものが何より大きかったと感じている。

当校の状況下での図書館環境整備は多くの方々の理解と協力が何より大切である。活動当初に学校側が「図書館応援団」が今後の環境整備の主体となることを示したことで活動が円滑に進んだ。途中、図書の廃棄の方法について様々な意見が出されたが、希望者に提供する形での廃棄処分という形に落ち着いた。また、蔵書を確認する作業や図書の入れ替え作業など、一定期間貸し出しを停止する複数団体への事務連絡などの徹底など紆余曲折の10ヶ月間だった。

今回の環境整備は、図書館運営の抜本的見直し（配架位置の見直し、図書分類の見直し、図書の装備作業、図書館装飾作業、推奨図書リスト作成など）多岐にわたる活動となった。

更に、整備された状態を長く維持していくための図書館運営にむけての提言もいただいた。

海外で生活する全日制や補習授業校の子ども達に、日本語を学び、感性を更に磨いて欲しいという関係者の願いをしっかりと受け止めると共に、在外教育施設での勤務の姿勢は「情熱」、「行動力」、「つながり」が何より大切であると再認識する活動となった。



「資料提供：元フランクフルト日本人国際学校図書館応援団 代表 村上珠美氏」